

令和2年度 第3回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:子どもが真ん中 ～子ども食堂が目指すみんなのつながり～

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、子ども食堂を利用されている皆様、子ども食堂を運営されている皆様、学生ボランティアの皆様と子ども食堂における課題などについて意見交換を行いました。

【日時場所】 令和3年1月13日(水) 午後1時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 子ども食堂利用者、子ども食堂運営者、学生ボランティア 10名

(主な意見等)

- 子ども食堂は、分け隔て無く必要なときに必要な支援を受けることができ、不足しているものはないかと常に気にかけてくれるため、孤立を避けることができ大変救われている。
- 子ども食堂の運営者として、誰もが孤立しない、誰もが来てよかったと思える温かさを実感できる場所をつくっていききたい。
- 子ども食堂は、食の支援だけでなく、保護者の心の相談にも乗ってもらえる場所である。
- 子どもの心の声を聴くうえで、学生ボランティアはなくてはならない存在であり、その声から課題を把握し、解決するためには、官民一体となった連携が必要である。
- 「防災こども食堂」の活動を全市町村で実施できるよう支援をお願いしたい。

(知事(県)の主な発言)

- 子ども食堂を通じて、顔が見える関係が生まれ、ここに来れば誰かがいるという支え合う場を提供いただいていることに敬意を表す。
- 様々な場面で、分断され、孤立し、一人で頑張っている状態を強いられている方に対して、県として今すぐ行動しなければならないと痛感した。
- 子ども食堂の運営者や学生ボランティアなどの支援する側におけるネットワークを築き、支援を受ける側とうまくつながる仕組みを考えていく必要があると感じた。
- 「GO TO PARK」などは、大変素晴らしい取り組みであり、県として子ども食堂の活動に対してどのような支援ができるかしっかりと整理していきたい。
- ひとり親家庭の支援などでは制度の隙間が生じている問題について、しっかりと検討していきたい。
- 学生ボランティアの協力は、大変心強い限りで、ぜひ活動を広げていただきたい。

